

戦後70年 沖縄戦を未来へ継承していく多元的デジタルアーカイブズ

## 「沖縄戦デジタルアーカイブ～戦世からぬ伝言」 を公開

首都大学東京と沖縄タイムス社とGIS沖縄研究室の共同研究

首都大学東京システムデザイン学部渡邊英徳研究室・沖縄タイムス社・GIS沖縄研究室は、1945年の沖縄戦（第二次世界大戦）終結から70年を迎える今年、沖縄戦の推移を時間軸で表現した「沖縄戦デジタルアーカイブ～戦世からぬ伝言」を制作し、本日6月19日に公開しました。首都大学東京システムデザイン研究科の渡邊英徳研究室、沖縄タイムスプラス、GIS沖縄研究室、の特設ウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.okinawatimes.co.jp/sengo70>

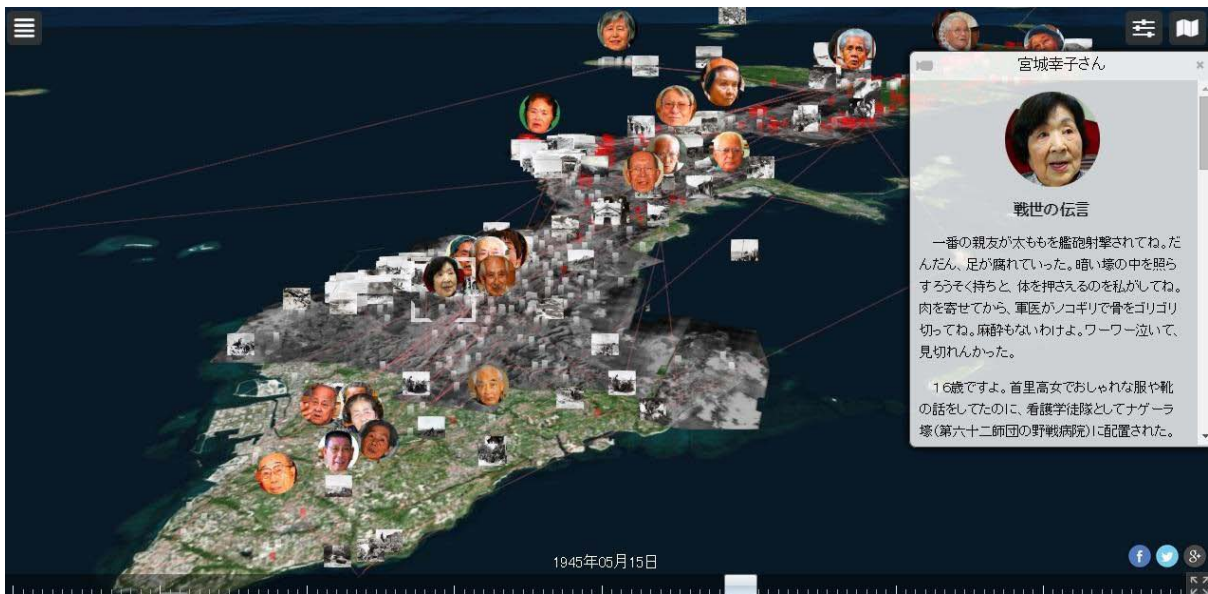
沖縄戦当時と現在の立体的な航空写真と地図に、沖縄タイムスの連載「戦世からぬ伝言（イクサクカラヌチテグトゥ）」「語れども、語れども」で掲載してきた写真や証言を重ね合わせ、1945年3月から6月までの戦争体験者が避難した足取りを可視化しました。体験者へのインタビュー動画や記事もご覧いただけます。また、米軍が最初に上陸した読谷（よみたん）村の村民はどこで死没したのか、米軍に追い詰められた具志頭（ぐしちゃん）村民はどこで亡くなったのかについて、比較検証することが可能です。さらに特設ウェブサイト全体を通して、沖縄戦の始まりから、2015年現在に至るまでの沖縄の歴史を知ることができます。

これまでに渡邊研究室が制作した「ヒロシマ・アーカイブ」（2011年7月発表）や、「東日本大震災アーカイブ」（2011年11月発表）などの「多元的デジタルアーカイブズ」の技術を応用し、戦前の航空地図や地形図については、GIS沖縄研究室（主宰・渡邊康志）が制作、沖縄県公文書館所蔵の米軍が撮影した沖縄戦当時の写真もふんだんに盛り込みました。今後、さらに追加していく予定です。

なお、読谷村と具志頭村出身者の戦没地の比較は、沖縄タイムスとGIS沖縄研究室が制作した「具志頭村～空白の沖縄戦」（2014年6月発表）の成果を生かし、制作しました。

このプロジェクトは、沖縄戦の継承を大きな目的としています。小中学校の平和学習の教材として、高校生や大学生向けとしては、実際に戦争体験者への聞き取り調査を行い、そのインタビューや写真、動画などを沖縄戦アーカイブに登録するなどして活用いただく予定です。また、修学旅行生向けの事前学習ツールとして利用することもできます。幅広い、参加型のプロジェクトとして発展させていければと考えております。

## ■沖縄戦デジタルアーカイブ



## ■沖縄戦 標的となった村 読谷



### 【お問い合わせ先】

- 首都大学東京 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域 准教授  
渡邊 英徳 電話：090 (9835) 2695 メール：[hwtvn@tmu.ac.jp](mailto:hwtvn@tmu.ac.jp)
- 沖縄タイムス社 デジタル局デジタル部  
電話：098 (860) 3582 メール：[media-desk07@okinawatimes.co.jp](mailto:media-desk07@okinawatimes.co.jp)
- GIS沖縄研究室  
渡邊康志 メール：[ywata@gis-okinawa.jp](mailto:ywata@gis-okinawa.jp)